



【 学校教育目標 】  
みずか まな たか  
自ら学び、高めあい  
よりよく生きようとする  
こ 子どもの育成

# ねん 4年 スポーツ出前授業 6/4 (火) だま え じ ゆ ぎ よ う か

スポーツ出前授業は、各競技のトップアスリートが学校に来て指導して下さるものです。この日は、4年生が三重ホンダヒートの方からラグビーの授業を受けました。

まず一流と二流の違いとして、「一流選手は失敗したときにヘラヘラしてごまかしません。悔しいとおもって一生懸命やります。」という話から始まり、この時間の目標を「一生懸命やること」とし、様々な運動に次々と取り組みました。運動の途中でチームで“作戦”を話し合う時間が入り、その作戦に基づいてまた挑戦するという流れでした。みんなで作戦を一生懸命考え、それを成功させようとみんなが夢中になってやりました。最後に、一生懸命やっただうだったかを振り返ると「楽しかった」という答えが返ってきました。一生懸命やることの楽しさや気持ちよさを感じることができた授業でした。



## あさ よ き 朝の読み聞かせ

隔週水曜日の朝、ボランティアの方に来ていただき読み聞かせをしていただいています。子どもたちは読み聞かせが大好きで、楽しみにしています。読み手のボランティアの方がページをめくる瞬間、子どもたちの目が大きく開くように感じます。きっとどんなふうの話がすすむのか、興味津津なのでしょう。たとえ読んだことがある本でも食い入るように聞いています。その姿を見ると、読み聞かせに集中力を高める効果があるといわれていることに強く納得します。



## ねん にんちしょう ようせいこうぎ もく 6年 認知症サポーター養成講座 6/6 (木)

核家族化の進展により、子どもたちは高齢者と関わる機会が少なくなり、高齢者への理解が困難な環境下にあることから、高齢者及び認知症の人を正しく理解するための学習をする機会をもつことが必要となってきています。そこで、鈴鹿市役所長寿社会課の方に「認知症サポーター養成講座」をしていただきました。

「おじいちゃん・おばあちゃんにどのようなイメージがあるか」と問われたとき、子どもたちから一番初めに上がった声は「やさしい」でした。「めっちゃ知識がある」という意見も出ました。そのようなイメージのおじいちゃん・おばあちゃんにだんだんにできないことが増えてきたとき、きっと子どもたちは戸惑い、どう接してよいのかわからなくなるのだと思います。

今回の授業で、「高齢者や認知症の方ができなかったことに対して、怒ったりせかしたりするのではなく、優しく受け止める」とはどういうことか、具体的に詳しく教えていただきました。また、子どもたちが元気に挨拶して、高齢者の方に元気を分けてあげることや、もし町で困っている高齢者を見かけたら、近くの大人に知らせることも自分たちができることだと教えていただきました。この講座をうけた6年生のみなさんは認知症サポーターです。学んだことを実行したり、周りに教えたりしてってもらいたいです。



## ねん そうじ げつ 6年 プール掃除 6/10(月)

今週から水泳の授業が始まりました。それに向けて、6年生がプール掃除をしてくれました。授業でプールを使うためには、プールだけでなく、プールサイド、更衣室、トイレ、流しなどたくさんの場所を掃除しなければなりません。それぞれが分担された場所を工夫してきれいにしてくれました。プール周りの排水路にたまった土を草取りの道具を使って上手にかき集めてくれたり、更衣室の荷物も全部出して隅々まできれいにしてもらいました。6年生のおかげで水泳の授業を行うことができます。

